

ポスターセッション (P - 水環境 - 16 ~ 30)

本セッションでは水環境関連の多岐に亘る分野の発表がなされた。以下、分野またはアプローチ方法別に分類して概要を示す。P - 16 では、全国の多数の河川水について変異原性生成能を測定した調査により、人間活動が変異原前駆物質の上昇に大きく影響することを報告している。P - 28 は多摩丘陵の生田緑地の湧水について硝酸性窒素を中心とした調査結果であり、5mg/L を超える地点が存在することが報告された。P - 24 は和歌山県内における河川の指標生物の調査結果とホームページ開設 (<http://www.w-eikoken.org/>) についての報告であり、環境教育へ利用されることが期待される。P - 25 は、産総研-水系暴露解析モデルの適用に関する報告であり、同様にホームページ (<http://www.riskcenter.jp/SHANEL/>) で広い活用が期待される。P - 30 では、河川水温上昇に下水処理場放流水が影響していることを示唆する結果を得ており、いずれはエネルギー回収の可能性を持つことも期待される。

P - 18 では、中国の養魚池におけるアオコ抑制法として部分遮光の効果を実証した結果が報告されている。P - 19 は生物間の他感作用を通じた相互作用を評価したものであり、公園池等におけるアオコ抑制に発展できる可能性を持つ興味深い研究である。P - 23 は沿岸域底質の重金属汚染対策として、アマモの重金属濃縮性を利用する可能性を検討したものである。P - 26 は二枚貝を用いた水中からのノニルフェノール除去を検討した報告であり、優れた吸着能を持つことが示されている。P - 27 は酸性の重金属含有廃水に対する人工湿地の浄化効果を長期間検討したもので、多くの重金属に効果が見られている。

P - 2 では、干潟における生物減少の原因究明の一步として、PAHs と Mn に注目した結果が報告されており、地道なメカニズム解明が問題解決につながっていくことが期待される。P - 21 では、オホーツク海の生物生産性の支配因子と考えられるアムール川から供給される鉄の動態を腐食物質との関連から調査検討した結果が報告されている。P - 22 はノリの病気に付着微生物が関与する可能性を DGGE 法により検討したもので、今回はその可能性が低いことを明らかにしている。

本セッションでは韓国からも同一グループの 2 件の発表があった。P - 17 は汚染底泥のリン酸除去における吸着剤の効果を検討したものであり、P - 29 は雨天時路面排水の上向流ろ過処理における損失水頭と懸濁物除去に及ぼす各種ろ剤の影響を検討したものであった。

(長岡技術科学大学環境・建設系 小松 俊哉)